

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

福は
うち!
の
09号

福玉便り

2013年2月1日(金)発行

ふ く た ま だ よ り

発行:『福玉便り』編集委員会 (一社)埼玉県労働者福祉協議会・NPO法人ハンズオン埼玉・震災支援ネットワーク埼玉(SSN)
編集デザイン:NPO法人ハンズオン埼玉 メール:fukutama@431279.com
連絡先:(一社)埼玉県労働者福祉協議会:〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6丁目4-21 TEL048-833-8731
印刷協力:富士ゼロックス埼玉 端数倶楽部

ママランチ会に来ませんか 「こども☆夢☆未来フェスティバル2013」にて! 2月24日(日)14:00- (フェスタは10:00から)

「こども☆夢☆未来フェスタ」(主催:同実行委員会、彩の子ネットワーク)にあわせて、「ランチ会」を開催します。慣れない土地、慣れない環境での子育てで、毎日たいへんな思いをしている避難家族のみなさん、子どもたちにはイベントで思い切りあそんでもらい、ママ&パパは、「馬車道伊奈けんかつ店」でちょっと遅めのランチを食べながら、情報交換やら「愚痴こぼし」をしませんか。お待ちしております!

伊奈町

参加費
無料



避難者の姿を映す ドキュメンタリー映像上映とトーク

越谷

2月10日(日)13:30~15:30

場所 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」セミナールーム
参加費無料 (要申し込み)

定員 50人

どなたでもご参加いただけます。

※駐車場は有料になります

主催:越谷市男女共同参画支援センターほっと越谷

上映作品

『原発の町を追われて~避難民・双葉町の記録~』

ドキュメンタリー映像/2012年/日本/56分/監督:堀切さとみ

福島第一原子力発電所の直後から、さいたまスーパーアリーナへ集団避難した福島県双葉町の方々。そのときボランティア活動に参加した堀切さとみさんが、双葉町の町民が旧騎西高校へ移動した後もその姿を追い続け、避難者の声を拾い集めました。

トークゲスト 堀切さとみさん(上映作品監督)/安齋作子さん(「一歩会」事務局長)



福島と埼玉をつなぐ「福玉結バス(無料)」を運行します!! 「福島県ふるさとふくしま帰還支援事業」の一環として行うもので、埼玉県内に避難している福島県民の方の「マイカーで福島まで往復するのはつらい」、「福島県内の仮設にいる友人・知人・親戚にも来てもらいたい」というご要望にお応えして試験的にバスを運行するものです。ぜひ、ご利用下さい。

◎運行日

2月23日(土)・24日(日)
3月30日(土)・31日(日)

◎コース

①さいたま新都心~郡山~二本松~福島
②さいたま新都心~いわき市

◎大型バス1台(定員40名)

主催・問合せ:
(一社)埼玉労福協 048-833-8731



新しい出合いを

東松山・鳩山合同ふるさと交流会

12月22日、東松山市の松山市民活動センターにて、「ふるさと交流会」新たな出合いとクリスマスリースをつくらう!」が開催されました。東松山市と鳩山町に避難している方々が集う初の合同交流会で、70人以上の方が参加されました。当日は、出身地ごとにテーブルを囲んで和やかな懇談が行われました。会場では、クリスマスリース作りや東松山市、鳩山町の市長さん町長さん、そして、ゆるキャラも登場して賑やかな会になりました。



鳩山町に避難していらした方々とご一緒しました。(編集部)



合同でおこなわれたこと、たしかに「新たな出合い」がありました。今後も、隣のまち、さらには広域で交流を行うことで、同郷の方との再会や次につながる新しい出合いがあるのではないかと感じました。主催の東松山市社会福祉協議会と鳩山町震災支援ボランティア実行委員会事務局のみなさま、お疲



鳩山町に避難していらした方々とご一緒しました。(編集部)

たのしくて、おいしいくて、たのしい!

みんなでヤキイモタイム in かぞびば



去る12月15日、加須市の騎西中央公園で月二回開かれている冒険遊び場「かぞびば」にて、「ヤキイモタイム」を行いました。当日は、常連さんの子どもたちも、はじめて来たよという親子もふくめて、総勢50人。埼玉の子ども福島の子もその親も、みんなで一緒に焚き火をしたり、落ち葉をかけあったり、ベーゴマをしたり、寒かったけど、汗だくになって遊びました。冒険遊び場(プレーパーク)は県内各地で開かれています。ぜひのぞいてみてください。



迎いの場所です。(編集部)

横・縦・ななめの連携で

浪江町から鴻巣市に避難して、交流会、賠償説明会、会報の発行と、精力的に活動されてきた篠原美陽子さんに、〈想い〉の活動についてご紹介いただきました。(編集部)

鴻巣・上尾合同クリスマス会

鴻巣市で〈想い〉として、活動しております、篠原です。鴻巣市では、12月15日にクリスマス会を去年に引き続き、実施しました。



今回は昨年来られなかった方に加えて、上尾市被災者の会(代表 橋光頭さん)と合同で行いました。鴻巣市への避難者の方は原子力被害者の方が多く、なかなか津波被災者の方への対応ができていなかった為、上尾市には、津波・自主避難・原子力災害と多岐にわたる避難者の方が多いと聞いて、これは、合同で行うことで、より多くの方同士の結びつきができるのではないかと、という事から、合同で行う事になりました。そして、当日は川越からの避難者の方も来て下さり、スタッフを含め総勢72名という大規模な交流会となり、大盛況でした。



横・縦・ななめの連携を

また、鴻巣市から上尾市・川越市へ転居した方から、それぞれ上尾・川越での被災者の会への連絡の引き継ぎをすることや、杉戸町には、富岡町の避難者が多いという事で、富岡町から鴻巣市へ避難中の方に案内等をお届けしていただけるよう、その方々の連絡先をお伝えするという事も行いました。

これもひとえに、福玉という会議を半年近く行ってきた、各支援団体・被災者の会の連携ができてきた証ではないか?と私は思っております。……他の団体でもこのように横・縦・ななめの連携ができるようになっていくと、いいな!とと思っています。

〈想い〉を届ける

〈想い〉の活動の中心は、会報誌の作成・発送、東京電力による賠償相談会です。会報誌の発行はこれまで



交流会: 青空・あおぞら

3月17日(日)13:30~16:00

会場: 新所沢公民館 埼玉県所沢市緑町1丁目8番

交通: 新所沢駅西口より徒歩8分(西武新宿線) ところバス「緑町中央公園」バス停より徒歩1分

参加申込先: 岡田 090-3960-8089、渡邊: 090-8424-9797 *事前にお電話にて参加のお申込みをお願いいたします。

「【青空】は、双葉町出身の岡田恭子(旧姓・志賀)や、浪江町から避難してきた渡邊幸ら数名で立ち上げました。「心に抱えた想いを話す場所をつくりたい」そんな思いを込めて交流会の準備を進めています。お気軽に参加ください。(岡田)

賠償説明会のご案内

篠原美陽子(福島県浪江町出身)個別相談会をひらきます。(ADR未提出の方に限ります。)

- 日時 2月23日(土) 9時から18時(一コマ80分での予約制です)
- 場所 鴻巣市市民センター 2F集会室 JR高崎線 北鴻巣駅東口より徒歩5分 ※ご予約に合わせて当日お部屋までご案内します。
- 説明者 東京電力福島原子力補償相談室 埼玉補償相談センター
- 持ち物 該当請求書一式※名寄せ・登記簿なども
- 予約 準備の都合上、予約制にしたいと思います。篠原090-3981-3258 345shinohara@ezweb.ne.jp メールでご連絡をいただくとありがたいです
- 追記 座談会のみを設けます。12時から13時15分 同センター2F和室にて 昼食、飲物、お菓子をご用意してお待ちしております。座談会のみ参加も可能です。(要ご連絡)

8号。相談会は2月23日(土)で第6回を迎えます。

私自身が、ずっと鴻巣市にしていると決めた訳ではないので、どこにいてもできる活動として、3・11の記録、避難日記から会報誌の作成が始まりました。

今では北は秋田、南は大坂まで70件ぐらいの方に届けています。友人・知人・被災者の会・様々な支援団体の方・東京電力の知人・内閣府・環境省の知り合いになった方々にもお送りしています。

賠償相談会

それから、賠償相談会は、申請書を作成しているのは東京電力ですから、一番このシステムを理解しているのは、東京電力自身だと私は考えました。賠償申請書はとても難しいことが多く、私自身も悩みました。「賠償が進む事」は、私達にとって生活再建の資金になり、私達が前に進む為の一つの方法だと考えて行っています。この相談会に、東京からいらっしゃる方もいますし、一度だけの方(参加した事で担当者を自宅



に来てもらっているようです。、毎回参加される方もいます。相談会に参加したことで、賠償が進んだというお声を被害者・東京電力両者からいただいています。今後はこの活動がさらに活発化できるように、色々な方と連携を取っていきたいと思います。尚、会報誌をご希望の方は篠原までご連絡をお願いします。

篠原美陽子 (福島県双葉郡浪江町身) 090-3981-3258 345shinohara@ezweb.ne.jp

「洗濯物を干している時にふと、『なんでミニにいらんだっけ?』って思う。」

第1回自主避難者懇談会

1月21日、東松山サン・コーポラスの集会所にて、母子もしくは家族で「自主避難」をしたお母さんたちの懇談会を実施しました。ご参加いただいたのは、郡山市からさいたま市に避難したAさん、福島市から嵐山町に避難したBさん、いわき市から川越市に避難したCさん、郡山市から東松山市に避難したDさん、郡山市から東松山市に避難したEさん、いわき市から東松山市に避難したFさん。

埼玉に避難した経緯などを自己紹介していただいたのち、不安に思っていることや今の気持ちなどについて、少しずつ話していただきました。

●福島と埼玉の間で落ち着かない気持ち

6人の方々のうち、早い方は震災直後、遅い方は昨年夏に、埼玉に避難してこられました。一度は福島に戻ってから再び埼玉に避難した方もいらっしゃいます。まず、皆さんに共通しているのが、福島と埼玉の間で落ち着かない気持ちでした。

●福島に残った家族や地元自治体との関係

『なんでこの入学式に出席しているんだろ?』と思った。』そんな気持ちは、福島に残ったご家族になかなか理解してもらえず、苦しい思いをされているそうです。複数の方が、義理のご両親から「気にしすぎ、神経質になりすぎ」と言われた経験をお持ちでした。また、義理のご両親との関係が、福島に戻るのを難しくして

と一緒に住んでいたの、別の家に住むとは言えなくて。さらに、どの方も、地元の市役所の対応での切ない思いをした経験をお持ちでした。「こちらは低姿勢でお願いしても、『なんなら、関東に住んでください』とまで言われてショックでした。いざれ帰りたいという気持ちがあるからこそ、お金をかけて電話をかけているのにな。』」

●ご主人との関係

母子で避難した方々の場合、福島県に残っているご主人が、週1回〜月1回の頻度でこちらに来られているそうです。ご主人に感謝しつつ、高速道路料金の経済的負担やご主人の体力的負担について、口々に心配をされていました。

「高速道路が無料のうちは、自分も頻りに帰って、主人もここにきてたんですけど、4月から無料が解除されたと同時に、子どもがスポ少に入ったので、週末にも帰ることもできなくなりました。子どもは『パパ、パパ』って泣いてばかりで。」

「旦那が帰るのは、子どもが寝てから、夜中の3時くらい。』高速で寝たらマズイだろうって濡れた鉢巻を頭に巻く姿を見て、泣きそうになった。つい、『そんなんでして、こっちに來させていいのかな?』って思ってしまう。」

●いま必要な支援

最後に、いま必要な支援については、次のような声がありました。「交流会に行くまでの1年近くは、ひとりぼっちのままでした。でも、参加してみたら、人のつながりができて、不安が少し解消された。してもらえばかりで申し訳ないなって思うんですけど、出来る限り参加したいです。」

園の入園料を福島と埼玉で二重に払うなど、経済的な負担もかかっています。お仕事を始めたいと思いつつ、条件に合う仕事が見つからずに困っている方がいました。「母子避難だと、仕事になかなか探せない。一時帰宅とか子どものことがあるし。」

「私は内職を友達に紹介してもらって、1ヶ月に1万円ぐらいいしかならないんですけど。会社の人に『がんばったね』と言ってもらえると、必要とされている感じで、うれしい。無心になれる時間ができて、気持ちに張り合いが出てきたかも。」

「私も内職をしたんですけど、下の子が小さくて昼間はできなくて、夜中に寝ないで仕事をしたら身体を壊してしまっ。」。最後に、いま必要な支援については、次のような声がありました。「交流会に行くまでの1年近くは、ひとりぼっちのままです。でも、参加してみたら、人のつながりができて、不安が少し解消された。してもらえばかりで申し訳ないなって思うんですけど、出来る限り参加したいです。」

「FICの割引とかがあればいいな、と思います。」

「子どもから離れる時間が欲しいな、と思います。福島だと千円で9時間預かってくれるところがあつたので。そういうチケットがあるといいですね。」

「自分が病気や緊急事態の時に来てもらって、子どもを見てくれるところがあつた方がいいですね。うちではまだ、ママ友もそれほどいないし。」

他方で、こんな声も聞こえました。

「震災から1年半も経つと、どこまで甘えていいのかわからなくて、迷います。自立しないといけないという思いもあつて。」。今後のことについて、おひとりの方はこの春に福島に戻ることを決意されたそうです。他の方々は、少なくとも現在の住宅にいられる来年度の春までは埼玉で生活する予定で、その後のことはまだ迷っているとのことでした。

福玉便り編集部では、今後も、自主避難者の方々やお子さんを抱えたお母さん方を対象にした企画を実施しながら、必要な支援について一緒に考えていきたいと思います。ご意見・ご要望がありましたら、ぜひお寄せください。(ご参加いただいた皆様、貴重なお話をありがとうございました)

東日本大震災広域避難者支援サロン

ハーモニー／双葉理容

埼玉県北東部に位置する加須市。国道122号線沿いにある、「東日本大震災広域避難者支援サロンハーモニー」と、「双葉理容」を訪ねました。

「ハーモニー」は、避難された方のコミュニケーションの場として2012年8月にオープンした、常設サロンです。10年使っていなかった空き家をボランティアスタッフが手で手をかけ、使えるように整えました。

歌とお話の会やヨガ、悩み・健康・法律相談を開催しています。毎週水曜日には、お昼に一汁一菜の健康食を200円で提供しています。

「この設立にはたくさんの方のボランティアが関わりました。」



毎週水曜日、ボランティアさんが作る健康食を、皆さん食べに来てくれます。ハーモニー代表の臼井智香子さん。「避難されてきた方たちに必要なことをサポートしていききたいと思っています。」

NPO法人ヒューマンソーシャルハーモニー研究所
TEL:0480(37)7021 (定休日:火曜日)

●双葉理容

同じ敷地内には、双葉町で営んでいた「双葉理容」が「ハーモニー」協力・運営のもと、昨年12月に再開しました。同町から避難してきている大井川繁光さん、妻・昭子さん、長男の妻・礼子さんが担当しています。

「今日も4人ほどお客さんが来てくれました。ここで、お互いの震災後の話なんかをして、一緒に涙を流すこともあります。」

孫に残そうと思っていた自分のお店もなくなってしまう、今後どうしていくか悩んでいると大井川さんは言います。



双葉町の皆さんの手作り品。丁寧に作られた布草履。



「いまは、お金儲けじゃなくて、お客さんが大事。来てくれれば一生懸命やろう、という前向きな気持ちになります。オープンの時、いろいろな人が来てくれて嬉しかったけど、もっと嬉しかったのは、最近の、2回目のお客さんです。オープンだから行くというのではなく、思ってくれているのだな。」。双葉理容は、男性も女性も通いやすいお店です。女性のためのシェービング・フェ

イシャルエステやローションパックなどのメニューもあります。メイクはサービスです。お子さん連れの方は託児もあります。隣には雑貨店「キートス」も併設。ハーモニーと合わせて、是非、足を運んでみてください。

双葉理容
TEL:0480(53)4865 (定休日:月・火曜日)
※現在、理容用の椅子を探しています。もし不要になった備品がありましたら、ご連絡ください。

「ハーモニー」は、埼玉県内の避難者交流会を2013年1月より、毎月開催します。場所は、大宮ソニックシティ、最終土曜日or日曜日を予定しています。是非お越しください。2月は24日日曜日を予定しています。

甲状腺検査レポート

「何もわからない」状態から 今の状態をつかむために

県の甲状腺検査の順番がなかなか回ってこないという声を聞きます。そんな中、県内に避難してきている根岸恭子さん(仮名)は、自費で甲状腺のエコー検査と血液検査を受けました。恭子さんは幼稚園に通うお子さんがいます。震災当時は2歳。子どもの放射性ヨウ素の影響による甲状腺被ばくを心配しています。



甲状腺科のある内科との出会い

もともと恭子さんは避難している地域の「甲状腺科のある内科」を数軒探してありました。ある時、風邪をこじらせた時に、近所のかかりつけ以外にも知っている病院を増やすつもりで、そのうちの一件の病院を受診。先生に避難してきていること、子どもの甲状腺が心配でエコーと血液検査を考えていることなどをお話したそうです。

すると先生が、「医学的にいまいか大きな結果が出るということはないと思うけれど、今のデータを持っていくことは大事だし、照らし合わせるデータがあるのとないのとは大きな違いがあると思う」と言ってくれたそうです。

エコー検査の結果

幸い、お子さんにエコー検査で異常はありませんでした。ただ、恭子さんは震災直後から何となく腫れているように感じていた甲状腺の右側から嚢胞がひとつみつかります。「今、嚢胞は水分だから大丈夫。大人だと、気にしていればわかるから、おかしいな、と思ったらすぐに来ればいい」と先生に言われ、少し安心できた、と話してくれました。

甲状腺血液検査の結果

福島県の甲状腺検査はエコーのみで甲状腺血液検査がないため、恭子さん親子は血液検査も受けました。

子どもの採血は見ているのがつらかったと話してくれました。それなりの量が必要とされるため両腕から採血したとか。「こんな想いをさせて申し訳ない」と悔しくて涙が出た、と恭子さんは言います。

甲状腺ホルモンにはT3およびT4というホルモンがあり、このホルモンをコントロールしているのがTSH(甲状腺受容体ホルモン)です。T3あるいはT4ホルモンが低下するとTSHは上昇、T3、T4が上昇するとTSHは低下、という作用があります。それぞれの数値が基準値を超えて高いか(あるいは低すぎるか)によって、「甲状腺機能亢進症」あるいは「甲状腺機能低下症」と診断されるそうです。

お子さんは基準値ギリギリの数値が出て、恭子さんは心配になったそうですが、先生は、「子どもの場合は体調によって大人よりもばらつきが出

る。大人は診断しやすいけど、子どもは簡単ではないです」と話してくれました。

そのため、検査を持ちかけた日にも「とにかく正常なとき、元気なときに来てください」と先生はおっしゃっていた、と恭子さんは言います。

経過を診るため、次回は半年後で大丈夫、と言われたそうですが「もし、地元に戻る予定があつて、その前に診て欲しい」ということだったら、3ヵ月後でもいいです」と言ってもらえた、とも話してくれました。

検査を受けてみて

「いろいろな考えの人、いろいろな立場の人もいて、賛否両論あると思うのですが、私は個人的には受けてよかった、と思います。大丈夫かどうかわからないのが怖い、と思ってるよりも、今、この状態のデータがあるのは強みだと思っています。知りたいな、データを持っておきたいな、と思ってる人は、検査をおすすめします」と恭子さんは話してくれました。

(恭子さん、ありがとうございます。ありがとうございました。)

原発事故子ども・被災者支援法勉強会(仮)のお知らせ

2月16日(土)午前10時~12時
場所:With you さいたま
視聴覚セミナー室(JR京浜東北線・宇都宮線・高崎線「さいたま新都心駅」/JR埼京線「北与野駅」徒歩5分)

講師:尾谷恒治 弁護士(SAFLAN/福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク)
参加費:無料
※託児あります。希望される方は下記に、2/12までにご連絡ください。
主催:With Youさいたま さいがい・つながりカフェ実行委員会
共催:『福玉便り』編集部
お問合せ:090-4226-9259(伊藤)まで



託児あり

携も必要となってくると言われています。「支援対象地域」は、国際放射線防護委員会(ICRP)が公衆被ばく限度を年1ミリシーベルトとしているため、「年1ミリシーベルト以上の地域」という声も上がっています。

- ### ■具体的に何が支援される?
- 現在、「原発事故子ども・被災者支援法市民会議」が復興庁に出している要望は、
 - ・移動に必要な費用補助(避難/保養/健診/家族と会うため)
 - ・被ばく低減や生活再建のために必要な支援などがあります。

この支援法に深く関わり、セミナーやシンポジウムなどを各地で開催している弁護士の尾谷恒治先生が、さいたま市に来てくださいます。託児あり、質問タイムあり、会場は駅からとても近いです。是非、勉強会にご参加ください。

- ### ■法案のポイント
- この法案のポイントはいくつかあります。
- ・在留、避難、帰還それぞれの立場を認める
 - ・特に子ども(胎児含む)の健康影響の未然防止、影響健康診断及び医療費減免
 - ・「国の責任」の明記
 - ・「支援対象地域」が未決定
- 復興庁が窓口ですが、この法案に関わる官庁は幅広く、実際の施行のために、連

昨年6月、超党派の議員立法として成立した「原発事故子ども被災者支援法」。避難する人、住み続ける人、故郷に戻る人、どの人にとっても必要な支援をするという画期的な法案です。

福玉アンケートへの協力、ありがとうございました。

昨年12月、『福玉便り』に住所をご登録いただいている方を対象に、「避難先・避難元からの生活支援と交流」「家族・子育て」「仕事」に関するアンケートをお送りし、184人の方から回答をいただきました。ご協力いただいた方に、改めてお礼申し上げます。なお、アンケートの詳細は次号以降の『福玉便り』などで紹介する予定ですが、今回は自由記述欄からの意見をいくつか紹介したいと思います。

■家族・子育て・教育について

医療や子育て支援、子どものためのイベント、遊び場に関する情報が欲しいという声がありました。「地域の子育て支援センターでは、すでに友人関係が固まっているため、避難者の方が入りにくく感じたり孤独感を感じる」という声もあるように、避難者のための交流スペース、イベントが必要です。さらに、一人で子育てをするストレスが子どもに影響することへの悩み、受験の悩み、福島から来たことでのいじめに遭うかもしれない、という不安なども挙げられていました。

■仕事について

母子の自主避難者の方は、二重生活による経済的負担がある中で、育児と両立できる仕事

■避難元・避難先からの生活支援と交流について

まず、イベントに参加できない理由として、「避難先の近くで行われていない」「仕事や子どもの行事の都合で時間が合わない」「交通費がかかるために参加しづらい」などの意見が寄せられました。また、交流イベントにおいて、強制避難と自主避難、世代の違いなどの違いから、スムーズに交流しにくいという声もありました。一方で、

がなかなか見つからないという声が複数ありました。子連れで働ける仕事の斡旋や、一時的に託児ができるサポートが喫緊の課題であるといえます。一方、福島に帰ってからの就職先が見つかるとかどうかという不安や、いつまで避難生活を続けるのか、今後どこに住むのか全く先の予定が立たないので仕事をみつけるのも就職活動するのも難しいという意見もありました。

この他にも、さまざまな意見を書いていただきました。「支援というものには、向き合っていくべきか...」自分自身もくわがなくなっているという声も寄せられたように、支援のあり方を今一度考え直す時期に来ているとも言えます。アンケートの意見を踏まえて、少しずつ、今後の支援活動に反映させていきたいと考えております。皆様のご協力もお願いいたします。



月	火	水	木	金	土	日	
女性のための電話相談ふくしま 0120-207-440 月～金(祝日のぞ)10時～17時 協力:女性の自立を応援する会/いわきふれあいサポート/郡山市・いわき市 など				1	2	3	
2月				■上尾市 ひまわり会合 10:00～11:30 食事会 11:30～14:00 シラコバト団地集会所 048-774-6323(団地自治会事務所)080-3091-6215(橘さん)	■新座市 新座つながりカフェ 13:30～16:00 栄公民館090-4968-5685(下瀬さん)		
■川越市 4 ココカフェ @川越 岩塩バスケットで手浴 10:30～13:00 コーアアラザ川越 090-4226-9259 (伊藤さん)	5	6	■杉戸町★つづじの里サロン 毎週木曜13:30～15:30 杉戸住宅6-3010480-31-0055(つづじの里サロン事務局) ■加須市 毛糸で小物作り 9:30～11:30 旧騎西高校生徒徒ホール★ 双葉町老人クラブ女性会・WithYouさいたまさいがいつながりカフェ共催	7	8	■加須市 寄り添いコンサート 15:00～ 寄り添いステーション 騎西 090-1650-2874(富沢さん) ■鳩山町 映画上映会 丘入禁止区域・双葉～それど我が故郷～	■羽生市 羽生つながりカフェ 10 11:00～15:00 パープル羽生 048-601-3111(WithYouさいたま) ■加須市 うさぎの雑形製作講習会 10:00～12:00 寄り添いステーション 騎西 090-1650-2874(富沢さん) ■越谷市 映画上映会 1ページに紹介記事
11 インターネットでも最新情報をご案内しています。 http://431279.com/ 震災支援ネットワーク埼玉(SSN)	12	13	■さいたま市 14 さいがいつながりカフェ 11:00～15:00 WithYouさいたま 048-601-3111 ★	15	16	■さいたま市 16 原発事故子ども被害者支援法勉強会(仮) WithYouさいたま6ページ参照	■ふじみ野市 17 おあがんなんしょ 「じっくり語ろういろいろぱた」 13:00～16:00 ふじみ野市アクトピア 049-261-0681(実行委員会)
18 ■川口市 19 ひまわりの会 10:00～おしゃべりサロン 12:00～ バスボムつくり、気仙沼に送ろうひざ掛けモーターつくり 南鳩ヶ谷 やすらぎ会館 080-4920-4931 (ひまわりの会)	20	21	■春日部市 21 春日部つながりカフェ 13:30～16:00 ぽぽら春日部 4F会議室3 048-829-7400(SSN)★	22	23	■東松山市 きずなの会 東松山ハートピア祭りにて、せんべい汁を出店 ■鴻巣市 賠償説明会 2ページに紹介	■加須市 24 うどんを食べて交流会 11:00～ 寄り添いステーション 騎西 090-1650-2874(富沢さん) ■伊奈町 福玉ママランクの会 1ページに紹介記事
25 26	27	28	■さいたま市 28 さいがいつながりカフェ 11:00～15:00 With Youさいたま4階 和室048-601-3111 ★	よんそいホットライン 0120-279-338 365日24時間。無料です。 震災・避難関連の相談をはじめ、生活の困り事、心の悩みなど、どんな内容でも対応してくれます。		★暮らしとこころの総合相談会 毎週木曜日 15:00～19:00 JACK大宮5階 集会所 (JR大宮駅西口徒歩1分)対象:埼玉県内在住の方。相談無料。048-782-4675(予約直通電話)。運営主体 夜明けの会(埼玉県委託事業)事務局	

さいたま市ホームページよりお知らせ*東日本大震災で被災して避難して来ている方々は、個人宅配の手数料が無料となります。受付0120-043-502まで!

ありがとうございます!

本誌の印刷は、『富士ゼロックス埼玉端数倶楽部』(社員ボランティア)の皆様が全面的にご協力いただいております。



本誌に関するご連絡はこちらまで
『福玉便り』編集委員会
 連絡先:(一社)埼玉県労働者福祉協議会
 電話048-833-8731
 メール:fukutama@431279.com

提供しています。支援物資のご案内

「日本が最も寒くなる2月、業務スーパーを展開する神戸物産様から、寄せ鍋のもと(スープ3～4人前)をご提供頂きました。魚介や野菜など好みの具材を煮込むだけで簡単なおいしい寄せ鍋ができあがっちゃいます。昨年の冬も大好評だった寄せ鍋のもと、今年も「キムチ鍋」と「ちゃんこ鍋」をあわせてご用意致しました。「ネット21熊谷(熊谷市)」「寄り添いステーション騎西(加須市)」「ネット21久喜(久喜市)」「川口市労働会館」で提供しています。さいたま市やその他の地域の方は(一社)埼玉労協まで電話(048-833-8731)でお申込み下さい。

福玉便り
お送りします。
 ご希望の方には、本紙を郵送でお送りします。

